

# グローバル化WG報告書のポイント

## 【基本的認識】

- ・ グローバル化の進展を大きなチャンスとして活かすべき。
- ・ 目指すべきは、世界中の人々から、訪れたい、住みたい、働きたいと思われ、日本人も日本に生まれてよかった、働けてよかったと実感できる国。
- ・ 2030年に向けグローバル化を最大限活かしていくためには、ここ1~2年の取組が極めて重要。

## グローバル化を活かせないと…

### 避けるべきシナリオ

- グローバルな経済統合に乗り遅れ、構造改革を怠れば、日本経済は低迷し、国際的地位が低下  
⇒ ・ 経済統合の流れに取り残される  
・ ビジネス拠点としての魅力低下  
・ 2030年の主要国に占める日本のシェアは大幅低下し、一人当たり所得は欧米を大きく下回る
- 日本の影響力が大きく低下  
⇒ ・ 国際政治の動きに受動的な対応  
・ 国際社会における日本の存在感低下  
・ 米中の圧倒的な存在感の間に埋没

## グローバル化をうまく活かせば…

### より良いシナリオ

- グローバル化への適応に成功し、経済が活性化  
⇒ ・ 一人当たり所得は欧米並みを維持  
・ 東アジアの地域統合が進展し、経済的繁栄と政治的安定が実現  
・ 国際交流が増大
- 世界的諸課題の解決で日本が重要な役割を果たす  
⇒ ・ 国連安保理の常任理事国入りを果たし、責任ある貢献  
・ 環境・エネルギー分野においてリーダーシップを発揮し、途上国支援で国際社会の信頼を獲得

**より良いシナリオ実現のためには、スピード感を持った対応が重要。**

## 日本の取るべき戦略

### 《対外戦略》

- 経済連携の推進  
・ ASEAN+3という域内での経済連携を優先し、それを周辺諸国へ拡大
- 協調的で開放的な共同体を東アジアに形成
- 中国との協調関係の構築
- 複雑な安全保障環境に総合的に対応
- 地球温暖化・エネルギー問題の解決で主導的役割  
・ 京都議定書後の新たな国際的枠組み作り  
・ 東アジアのエネルギー・環境問題の地域協力の枠組み形成
- 国際機関や国際基準作りに貢献  
・ 世界で活躍できる「世界人」の増大

### 《国内のグローバル化対応》

- 外国人労働者の積極的かつ秩序ある受入れ
- 農業の効率化、競争力の強化
- 対外政策の意思決定メカニズムの改革

# グローバル化WG報告書ポイント

## 1. 基本的認識

- 日本が目指す方向は、グローバル化をチャンスとして活かすこと。ただし、脅威にもなりうることに留意。
- 日本が目指すべき姿は、世界中の人々から、訪れたい、住みたい、働きたいと思われ、日本人も日本に生まれてよかった、働けてよかったと実感できる国。
- 2030年に向けグローバル化を最大限活かしていくためには、ここ1～2年の取組が極めて重要。

## 2. 避けるべきシナリオ ～グローバル化を活かせないと世界の中で日本はどうなってしまうのか～

- グローバルな経済統合に乗り遅れ、構造改革を怠れば、日本経済は低迷し、国際的地位が低下する。
  - ・経済統合の流れに遅れをとり、自由貿易圏から取り残される。
  - ・グローバルなビジネス拠点としての日本経済の魅力は減退。
  - ・過去10年のトレンドに基づき大胆に仮定計算すれば、2030年に主要国の中で日本の占めるシェアは現在の4分の1程度に大幅低下し、経済規模では、中国に追い抜かれ、インドにほぼ肩を並べられる。
  - ・一人当たりGDPでも、欧米を大きく下回る。
- 世界における日本の影響力は大きく低下する。
  - ・日本経済の世界に占めるシェアが低下し、政治、安全保障面でも然るべき対応がとられなければ、日本の国際的影響力も低下し、国際政治の動きにも受動的にしか対応できなくなるだろう。
  - ・このため、米国にとっての日米関係の意味が薄れ、日米同盟関係の意義に疑問が付きされるかもしれない。
  - ・また、中国が発言力を増しサミットに参加してG9となる一方、日本の存在感が低下し、国連安保理の常任理事国となったとしても、相応の責任を果たすための資質が疑われる事態も考えられ、米中の圧倒的な存在感の間に陥没してしまうおそれがある。

### 3. グローバル化の下でのより良いシナリオ

- グローバル化への適応に成功し、経済が活性化している。
  - ・構造改革が実を結べば、2030年に主要国に占める日本のシェアは、現在の6割程度になるが、一人当たりGDPは、欧米並みの水準を維持。
  - ・東アジアの地域統合が進展し、経済的繁栄と政治的安定がもたらされる。
  - ・国際交流が顕著に増大（2030年の訪日外国人旅行者数は約4,000万人に達する可能性がある）。
- 世界的諸課題の解決において、日本が重要な役割を果たす。
  - ・国連安保理の常任理事国入りを果たし、世界的諸課題の解決に責任ある貢献を果たす。
  - ・世界で活躍する「世界人」と、日本をよく知る「知日人」双方が大きく増大。
  - ・国際機関でリーダーシップを發揮し、途上国支援で国際社会の信頼を獲得。
  - ・気候変動防止のための新たな国際的枠組み作りや、エネルギー・環境分野における東アジア諸国との地域協力にリーダーシップを發揮。

### 4. より良いシナリオへの戦略

#### (1) 対外経済戦略

- 経済連携を推進する。
  - ・グローバル化の下で日本経済の潜在成長を引き出すため、経済連携を推進。
  - ・ASEAN+3という域内での経済統合を優先させ、それを周辺諸国に広げるとともに、エネルギー、環境、政治、安全保障等の分野の協力を進め、協調的・開放的な共同体が東アジアに形成されるようリーダーシップを發揮。
  - ・中国の成長をビジネスチャンスととらえ、投資協定や知的財産の保護等を含む先進国並みの経済連携協定（EPA）を通じ、ヒト、モノ、カネの流れを促進。

#### (2) 外交・安全保障戦略

- 国際社会運営に参画。
  - ・米国との同盟関係、欧州との友好関係を維持しつつ、平和的で安定的な東アジアを形成し、国際社会全体の運営に積極的に参画。

- 中国とはアジア全体の共同利益の観点から協調関係の構築を目指す。
- 複雑な安全保障環境に総合的に対応する。
  - ・テロリスト等の非国家主体からなる脅威と、国家間紛争に起因する伝統的な脅威が併存する複雑な安全保障環境に対応できるよう、米国等の友好国や国連との協力を組み合わせて対応。
- ODAについては国際的動向を踏まえ、効率化を進めつつ、戦略的拡充を図るべきである。
- 国際機関の意思決定や国際基準作りで、日本の貢献を拡大する。
  - ・世界で活躍できる「世界人」を大幅に増大させ、WTO等国際機関で活躍できる人材を育てる。

### (3)環境・エネルギー戦略

- 地球温暖化・エネルギー問題において主導的な役割を果たす。
  - ・京都議定書後の新たな国際的枠組みに関し日本が率先して提案・議論し、全員参加型の実効性のある枠組み作りを主導。
  - ・東アジア域内の協力を推進し、エネルギー・環境問題に共同して対応する枠組みの形成に向け、日本がイニシアティブを取る。

### (4)国内のグローバル化対応

- 外国人労働者の積極的かつ秩序ある受入れを行う。
  - ・一定の資格・技能をもち、一定レベルの日本語を習得した外国人には、原則、日本での就労を可能とする。
  - ・入管制度と就労管理を一体化し、不法入国者を厳しく取り締まる。
- 農業の効率化、競争力の強化を図る。
  - ・関税等の国境措置による支援から、意欲と能力のある生産者に限定した直接支払による支援へ移行していくべき。
  - ・自由貿易協定 (FTA) 交渉の中では、原則として全ての農産品について、可能な限り速やかに (最大10年) 数量制限のない関税ゼロ化を目指し、交渉カードとする。
- 対外政策の意思決定メカニズムを改革する。
  - ・省益を超え、国益の観点から、戦略的・機動的に政策を企画・立案・調整できる体制作りが必要。